

色水作ろう

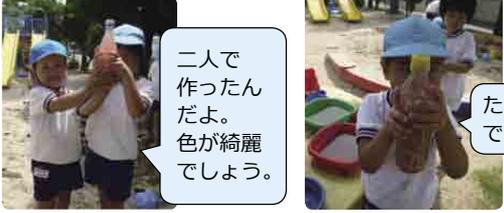
周囲の環境が、自分たちの生活や遊びに身近なものとなっている子どもたちは、環境の変化に敏感です。そして、そこでの発見をきっかけに、遊びを見付け、今までの経験を活かして、自分の遊びを展開していく体験により、「科学する心」が育まれています。遊びの姿から、子どもたちが、何に興味をもっているのか？何を面白がったり楽しんだりしているのか？など視点をもって見ることで、子どもたちの体験の内容を読み取ることが期待できます。

子ども（4歳児）

福岡市立雁の巣幼稚園

<遊びの始まるきっかけ> 6月25日

門の横にあるヤマモモの木の下に実がたくさん落ちていることに子どもが気付いた。以前、アサガオで色水を作ったように、ヤマモモをビニール袋に入れて揉み、色水を作ろうとする姿になり、ヤマモモの色水遊びが始まった。
(保…保育者の願いや気付き)

子どもの姿	① ビニール袋を使って色水を作る  上手くてきないよ。 爪で、潰すんだよ。	② 実をすり潰して色水を作る  おもしろい。 たくさんできるよ。ペットボトルいっぱいになるまで作ろう。
	保 ・少し難しいのかな？ ・他の方法でも作ることができることを伝えている。	保 ・すり潰すという方法自体を楽しんでいるみたい。 ・たくさんできることを喜んでいる。
子どもの姿	③ 友達と作る  楽しそうだなあ。 こうやってするんだよ。手伝って。 一緒に綺麗な色水を作ろう。	④ できた色水を見せにくる姿  二人で作ったんだよ。色が綺麗でしょう。 たくさんできたよ。
	保 ・友達の様子に興味をもっている。 ・友達との協力が嬉しそう。	保 ・友達と作ったことが誇らしげ。 ・綺麗な色水が作れた満足感。

<遊びの展開のきっかけ> 7月8日

ヤマモモの色水遊びをしているうちに、いろいろな色の色水を作りたいと、子どもが思うようになり、ペンを使った色水遊びに発展した。

子どもの姿	⑤ ペンで色水作りをする  容器の水をしっかり拭いて、するんだよ。 どんな色水ができるかな。	⑥ 色水を混ぜて遊ぶ  綺麗ね。 混ぜたらどうなるかな。
	保 ・自分で工夫している。 ・色の予想をしながら作る。	保 ・思いついたことを試している。 ・期待と予想をしながら作る。

【この事例で育つ幼児の科学する心】

- “ヤマモモの実を爪で潰す”などの自分が見つけたコツを友達に伝える。
- 実をすり潰すという新しい方法に興味をもち、進んでやってみようとする。
- 友達と協力して、綺麗な色水を作り、出来上がりを喜ぶ。
- “ペンを濡らしてはいけない” 約束ごとから、容器を拭いて使うということの意味が分かり、自分たちで考え友達に伝える。
- たくさん色水を見て、「混ぜたらどうなるかな？」と新たな疑問をもち、試す。

子どもたちの遊ぶ姿から、遊び出しや遊びの展開のきっかけ、体験していることを読み取り、子どもたちにとっての「素材の意味」「環境の役割」をおさえています。記録として分かりやすく表に残しておくことで、今後の環境構成のヒントに繋がります。画像を使った「見て分かる素材・環境」は、園内の職員間の共有がしやすい利点があります。

保育者（保育計画に繋がる環境・素材）

福岡市立雁の巣幼稚園

幼児が、様々な事象に気付き、興味深く見たり触ったりしながら探求する姿を大切に育てていくためには、保育者は遊びの素材や環境を常に意識しながら、保育にあたるのが重要である。そこで、どのような素材や環境をいつ、どこで、どのくらい出すのかなど、保育計画を立てる際に判断となる基準を明確にしていきたいと考えた。3～5歳児の発達段階を考慮しながら、子ども一人一人が「どのような遊びの経験をするのが望ましいのか」、さらに「充実して遊ぶためには」、素材や環境の提示をどのように工夫していけばよいのかなどを明らかにしていくことで、「科学する心」は育つであろうと考えた。

○「素材」とは…自然物（砂、土、水、石、植物など）、元になる材料（紙、新聞紙、広告紙、ダンボール、空き箱など）

○「環境」とは…生活や遊びに必要な物・道具、身近な自然現象、素材・環境の提示（色水遊び※ P.8 事例より）

素材・環境の提示を整理した表から抜粋（色水遊び）3歳児～5歳児				P.8 事例含む	
	育てたい幼児の姿	素材	素材の意味	環境（画像）	環境の役割
3歳児	<p>○砂遊びやプール遊びで、水に触れる経験をしている。</p> <p>○ペットボトルに砂と水を入れ、コーヒーに見立てたり、カップで、型抜きをしたりできる。</p> <p>○身近な素材を遊びに取り入れようとする。</p> <p>○自分で育てたアサガオが観賞するだけではなく、花に水を加え、自分の指に力を加えることのできる色水的美しさに気付く。</p> <p>○花の色の違いによって色の出方が変わり、混ぜることでさらに色が変わる。不思議さに気付く。</p>		<p>アサガオの花 自分で世話をしているということで、幼児にとって最も身近な素材である。3歳児の力でも簡単に色が出る。揉む力加減によって、色の出方が変わり、自分の力で色の濃淡を楽しむことができる。花の色の違いによって、できる色が違うことに気付くことができる。</p>		<p>ペットボトル 小さいペットボトルは幼児の手に持ちやすく、水を汲む、カップから移すなどの操作がしやすい。</p> <p>プリンカップ 口が広いこと、深さが浅いことから、幼児の手が入れやすく、花を揉む動作がしやすい大きさである。透明な容器であり、色がよく見えるため、ジュースに見立てやすい。</p> <p>洗面器 4人に1個程度になるように準備する。バケツほどの深さがなく、カップで水を汲むのに適している。</p>
4歳児	<p>○これまでに、アサガオで色水を作ったり、砂と水を混ぜてコーヒーを作ったり、空き容器に水を入れ、実や花を浮かべたりする経験を繰り返し楽しんでいる。</p> <p>○幼児に、身近な素材を通して、他の素材でも色水ができることを知り、生かそうとすること、磨り潰すなどの新しい道具や方法で試すこと、友達と関わることなどを育てたい。</p>	 	<p>ヤマモモの実 登降園時に目にする場所にあり、幼児にとって身近な素材である。実が大きく、扱いやすい。また、少し潰すと色がやすい。</p> <p>水 3歳の頃より、砂場遊びや水遊びなど、水にたくさん触れて遊んでいる。水の感触は幼児が大好きである。</p>		<p>ペットボトル 色水をとっておくために使う。持ち帰りたい幼児、たくさん作りたい幼児など、様々なニーズがあり、大きさの違うペットボトルを用意する。</p> <p>ビニール袋 色水作りに使う。幼児の手に合うよう小さめのものを使う。</p> <p>透明容器 透明なので、色が見えやすい。色水を遊びに使う用途が様々であったため、大きさの異なる容器を準備する。</p> <p>水性ペン 製作コーナーにいつもあり、扱い慣れている。大切に使うように、色水用としては数と色の種類を減らして用意する。</p> <p>砂場遊具 水を入れる、ヤマモモをこする、色水を容器に移すなどに使う。いつも砂場遊びで使い慣れたものを提示する。</p>
5歳児	<p>○3・4歳児の時、アサガオ、オシロイバナ、ヨウシュヤマゴボウで色水遊びをした経験がある。別の素材でも</p>	 			

【考察】

- ・素材の特性に着目し、素材の意味を捉えたことで、幼児にとって価値のある環境に繋がり、子ども主体の実践を展開することができた。
- ・道具や用具の役割を細部にわたって表にまとめられたことは、保育者が各年齢に応じた環境を提示する基準となった。